



# 履 歴 書

令和 3 年 9 月 15 日現在

フリガナ	テヅカ ハナコ				写真貼付 デジカメ写真可。 正面上半身 無帽・無背景 6ヶ月以内に撮影 縦4cm・横3cm	
本名	帝塚 花子					
フリガナ <small>(大学で通称名をご利用の場合)</small>	ナラヤマ ハナコ					
氏名	奈良山 花子					
生年月日	西暦 和暦	1964年 昭和39年	8月 7日 ( 57歳)	性別	※任意記入	
現住所	〒543-0012 (TEL 06-5432-1234 ) 大阪市天王寺区〇〇〇町1-2-34 △△ハイツⅢ-1203号				国籍	日本
携帯番号	090-1234-5678		Eメール	hanako_nara@cmail.com		

帝塚山大学で通称名の使用を希望する場合のみ記入。

写真貼付

デジカメ写真可。

正面上半身  
無帽・無背景  
6ヶ月以内に撮影  
縦4cm・横3cm

西暦(年) 和暦(年) (月)

学 歴	西暦(年)	和暦(年)	(月)	学 歴
	1983	昭和58	3	〇〇県立(または国立、〇〇市立、私立) 〇〇〇高等学校卒業
	1984	昭和59	4	〇〇大学〇〇学部〇〇学科入学
	1986	昭和61	3	〇〇大学〇〇学部〇〇学科退学
	1986	昭和61	4	××大学××学部××学科3年次編入学
	1988	昭和63	3	××大学××学部××学科卒業
	1988	昭和63	4	△△大学大学院◇◇学研究科修士課程入学
	1990	平成2	3	△△大学大学院◇◇学研究科修士課程修了
	1991	平成3	4	〇〇〇大学大学院〇〇学研究科◎◎◎学専攻博士後期課程入学
	1994	平成6	3	〇〇〇大学大学院〇〇学研究科◎◎◎学専攻博士後期課程単位取得退学 (または) 〇〇〇大学大学院〇〇学研究科◎◎◎学専攻博士後期課程修了

他大学への再入学、編入学の場合、何年次に入学したかを記入。

「学位」欄は学士以上の学位を記入。専門職大学院の場合は、「臨床心理修士(専門職)」などと記入。

平成3年(1991年)6月30日以前に授与された学位は「〇〇学士」、「〇〇修士」、「〇〇博士」。同年7月1日以降であれば、「学士(〇〇)」、「修士(〇〇)」、「博士(〇〇)」。

学 位	西暦(年)	和暦(年)	(月)	学 位 名	学 校 名
	1988	昭和63	3	××学士	××大学
	1992	平成4	3	修士(◇◇学)	△△大学
	1998	平成10	3	博士(◎◎◎学)	〇〇〇大学

職 歴	西暦(年)	和暦(年)	(月)	職 歴
	1996	平成8	4	A大学B学部非常勤講師「〇〇概論」「〇〇演習」担当(平成10年3月まで)
	1997	平成9	10	C大学D学部非常勤講師「〇〇入門」「〇〇〇〇実習」担当(現在に至る)
	1999	平成11	4	S大学T学部U学科専任講師「〇〇概論」「外書講読」担当(平成17年3月まで)
	2005	平成17	4	X大学Y学部Z学科准教授「〇〇学史」「〇〇学概論」「外書講読演習」「ゼミナール」等担当(現在に至る)
	2010	平成22	7	大学設置審議会の教員組織審査においてX大学大学院J学研究科修士課程准教授(〇〇学特論)のM合の資格ありと判定

西暦と和暦の年数に注意。

担当科目に直接関係のある職歴については、できるだけ具体的に記入。

職名・職位を明記。

学会、社会における活動等	西暦(年)	和暦(年)	(月)	活動等
	1993	平成5	4	日本〇〇学会会員(現在に至る)
	1998	平成10	10	関西〇〇協議会会員(平成××年×月まで)
	2000	平成12	6	国立〇〇〇〇センター倫理審査委員(現在に至る)

所属している学会、団体等の名称を、加入した年月順に記入。

賞 罰	西暦(年)	和暦(年)	(月)	賞 罰
	2010	平成22	10	〇〇学会優秀論文賞受賞

研究成果に対する学会賞等もここに記入。

なければ、「なし」と記入。

資 格 等	西暦(年)	和暦(年)	(月)	資格等
	1994	平成6	7	高等学校教諭一種免許状(理科)(京都府教委:平6高1第1234号)
	2003	平成15	2	管理栄養士免許(登録番号:第54321号)
	2007	平成19	3	一級建築士免許(登録番号:第102030号)
	2008	平成20	3	保育士資格(登録番号:大阪府-0123)
	2019	平成31	2	公認心理師(登録番号:第9071号)

所有している資格・免許の登録番号なども記入。教員免許等についても該当があれば記入。

上記のとおり相違ありません。

令和 年 月 日  
氏 名 帝塚 花子  
(平仮名・フリガナ・姓中を願います)



シャチハタ印は不可。

・記載内容に応じて、適宜行数を調整してください。

# 教育研究業績書

令和 年 月 日  
氏 名

シャチハタ印は不可。



(本名での署名・捺印をお願いします)

学生の理解を図るため、工夫を凝らしたわかりやすい授業を行っているか。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 (例) 学生の授業外における学習効果促進のための取り組み、授業内容・教材のWEB上での公開など。 司法研修所等の教育機関における教育経験		100~200字程度で記入。
2 作成した教科書、教材 (例) 大学の実際の授業や研修指導等で使用する著書など。(高校以下で使用する教科書は「研究業績」欄に記入)		100~200字程度で記入。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 (例) 各大学における自己点検・自己評価での評価結果、教員相互による評価結果、学生による授業評価結果、大学からの優秀教員表彰等		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 (例) 高等学校以下の学校での教育実績(出前講義など)、大学から受け入れた実習生等に対する指導、大学の公開講座や社会教育講座における講師、シンポジウムにおける講演等、訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修		
5 その他 (例) 大学教育改善に関する団体等での活動の概要、教育実績に対する表彰、国家試験問題の作成等		

学生の理解を図るために作成し、また、授業や教職指導において活用している教科書や教材。

学生の理解を図るために行っている取り組みに対し、大学から特に高い評価を受けたものがあれば記入。

外部と連携することによって成果を上げた教育に関する取り組みを記入。

学生の理解を図るための取り組みのうち、上記に該当しないもの。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許 担当する教育内容に関する資格、免許。		
2 特許等 担当する教育内容等に関する特許。実用新案等。		なければ、「なし」と記入。
3 実務の経験を有する者についての特記事項 (例) 大学との共同研究、各種の審議会・行政委員会等の委員活動、行政機関における調査官等の官職、調査研究、留学、海外事情調査、研究会・ワークショップ等での報告や症例発表、訴訟・審判・監査・企業提携・研究開発等の担当実績等。		
4 その他 (例) 職能団体等からの実務家としての卓越性に関する評価・推薦等、論文の引用実績等。		上記の1~3に該当するもの以外の事項について、必要に応じて幅広く記入。

概要を、200字程度で記入。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1				
2				
3				
(必要に応じて)				
(学術論文)				
1				
2				
3				
(必要に応じて)				
(その他)				
1				
2				
3				

一冊の本を単独で執筆した場合に限らず、2人以上で執筆した場合も、担当執筆ページ数の多少にかかわらず「著書」とする。その際、担当執筆分は単著であっても「共著」として扱い、その「名称」欄には、その本の表題を記入。

上の「2 作成した教科書、教材」欄に記載したものは、再度ここに記載しない。

「著書」「学術論文」「その他」の順に区分し、それぞれ年月日順(過去→現在)に、各区分ごとに番号を付して記入。

著書等が外国語で著されている場合、著書名等は外国語で記入するとともに、( )書きで訳文を記入。概要は日本語のみで構わない。

著書の全ページ数はここに記入。

執筆担当ページ数はここに記入。

共著の場合、本人の氏名(下線を付すこと)を含む著作者全員の氏名を当該著書等に記載された順に記入し、本人担当部分が明確になるように(担当部分の章、節、題名、掲載ページ等)記入。本人の担当部分を明確にできない場合ときは、その理由を明記。

国際学術雑誌、学会機関誌、研究報告等に学術論文として発表したもの。学位論文の場合は、その旨を記載。査読付き論文の場合は、題名の後に(査読付)と記載。

発表雑誌の誌名等のほか、巻・号・全ページ数等も記入。

書評、資料紹介、学会情報、学会発表要旨、翻訳等は学術論文とは認められない。(その他)の欄に記入。

学会発表の場合は、大会名、開催場所等も記入。

作品、演奏、競技等については、できるだけ具体的な説明を付記する。

・記載内容に応じて、適宜行数を調整してください。



# 教育研究業績書

令和 年 月 日

氏名 帝塚花子 (印)

(本名での署名・捺印をお願いします)

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
(1)ゼミナールの対抗討論会	平成20年8月以降	〇〇大学、△△大学とのゼミ対抗の討論会を毎年行っている。
(2)視聴覚教材による教育	平成25年6月1日	従来の冊子だけの授業よりも教育効果をあげるために、テキストの内容に準拠した視聴覚教材を作成した。
2 作成した教科書、教材		
(1)『〇〇〇〇概論』	平成23年4月	大学の司書課程向けの教科書として作成。適時改訂を行い版を重ねている。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
(1)平成30年度授業評価アンケート	平成31年1月	学生の授業評価アンケートで、授業内容に満足という回答が8割を占めた。
(2)ティーチャーオブザイヤー学長表彰	平成31年3月	平成30年度のティーチャーオブザイヤー学長表彰を受けた。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1)企業内研修会の講師	平成18年6月6日	△△株式会社の「〇〇問題に関する研修会」で講師を担当。渉外チームの円滑な実践展開のための人間関係づくりを、グループエンカウンター技法を中心に体験学習方式で指導した。
5 その他		
(1)〇〇国家試験出題委員	平成28年4月～現在	△△省実施の〇〇国家試験の「××」分野の出題委員を務めている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
(1)高等学校教諭一種免許状(理科)	平成15年2月	京都府教委:平6高1第1234号
(2)管理栄養士免許	平成19年3月	登録番号:第54321号
(3)一級建築士免許	平成20年3月	登録番号:第102030号
2 特許等		
(1)〇〇装置	平成9年4月5日出願	△△と共同出願。特許第×××号
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1)〇〇(株)法務部〇〇課	平成18年8月～	〇〇課長在任中に、△△(株)との独占禁止法違反事例に関する訴訟を担当し、平成19年5月に当社の主張が認められた内容で和解が成立した。
(2)△△市男女共同参画審議会 委員(有識者)	平成25年4月～	市の共同参画プラン作成や市民意識調査実施、条例制定への助言を行った。
4 その他		
(1)出張講義	平成28年4月～	〇〇大学△△学部の「特別講義(企業研究)」について、当社への講師派遣要請があり、毎年同大学に向いてこの業界についての講義を行っている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1 ……………	単著	平成15年5月	〇〇〇出版社	…………… A4、総頁数250頁、編者〇〇〇〇 分担執筆:共著者A、本人氏名、共著者B、共著者C 担当部分(第3章「〇〇について」pp31～48)
2 ……………	共著	平成20年8月	△△書店 (〇〇研究叢書)	…………… 共著者A、本人氏名、共著者B 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
(学術論文)				
1 タイトル	単著	平成10年10月	学位論文(博士)	……………
1 英文タイトル (和訳…………)	単著	平成13年10月	「〇〇研究」、日本〇〇〇 学会誌、第8号 pp. 26-52	……………
2 …………… (査読付き)	単著	平成15年5月	「〇〇研究」、日本〇〇〇 学会誌、第10号 pp. 28-48	……………
3 ……………	単著	平成22年2月	〇〇大学紀要(第8号) pp. 15-32	……………
(その他)				
[作品]				
1 ……………(作曲)	単著	平成8年4月	〇〇楽譜出版社	〇〇県立芸術文化センターにて初演。〇〇之友社賞受賞
2 ……………(CD)	共演	平成10年4月	(リリース元、レーベルなど)	曲名(作曲者)、共演:〇〇〇〇(Vn)、△△△△(Vc)
[学会発表]				
1 …………… (ポスター発表)	共著	平成25年8月	第〇回日本〇〇学会全国 大会(△△大学)	代表発表者×××× ……………
2 …………… (口頭発表)	単著	平成30年11月	第〇回関西〇〇学会総会 (◇◇大学)	……………

・記載内容に応じて、適宜行数を調整してください。